



2021年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2021年4月7日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 小野寺 徹
 問合せ先責任者(役職名) 取締役常務執行役員 兼 CFO (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03(3518)1900
 四半期報告書提出予定日 2021年4月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年8月期第2四半期の連結業績(2020年9月1日~2021年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期第2四半期	5,747	1.0	1,264	25.0	1,334	31.2	911	31.9
2020年8月期第2四半期	5,690	△6.3	1,012	6.1	1,017	6.6	690	6.8

(注) 包括利益 2021年8月期第2四半期 911百万円(31.9%) 2020年8月期第2四半期 690百万円(6.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年8月期第2四半期	51.17	51.14
2020年8月期第2四半期	38.79	38.78

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年8月期第2四半期	21,634	19,360	89.4
2020年8月期	21,419	18,800	87.7

(参考) 自己資本 2021年8月期第2四半期 19,346百万円 2020年8月期 18,791百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2021年8月期	—	0.00	—	—	—
2021年8月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年8月期の連結業績予想(2020年9月1日~2021年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,400	0.1	1,510	△31.0	1,600	△27.1	1,040	△30.2	58.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年8月期2Q	17,804,032株	2020年8月期	17,804,032株
2021年8月期2Q	137株	2020年8月期	137株
2021年8月期2Q	17,803,895株	2020年8月期2Q	17,803,895株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「新型コロナウイルス」といいます。）の影響が長期化し、首都圏を中心に2度目の緊急事態宣言が発令されるなど、厳しい状況が続いております。個人消費に一部持ち直しの動きがみられるものの、未だ感染収束の見通しは立っておらず、依然として先行きは不透明であります。今後は感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げられていくことが推測されますが、当面、厳しい状況が続くと見込まれます。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の77.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しております。BSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費においては前年比で92.6%と減少しており、引き続き厳しい状況が続くと見込まれます（「2020年 日本の広告費」(株)電通調べ）。

このような状況下、当社は「強みの確立と定着」をテーマに、良質な自社制作番組と外部リソースの最適なミックスによる視聴世帯数の更なる増加を目的とした番組編成を行いました。人気歌手である八代亜紀さんが豪華ゲストと共に楽しいトークと素敵な歌をお届けする『八代亜紀 いい歌いい話』など、継続して自社制作番組へ注力して参りました。2月からはフラッシュニュース形式でお伝えする『速報ニュース インサイドOUT』の放送を開始。ヨーロッパミステリー『刑事モース～オックスフォード事件簿～』をBS無料初放送するなど、視聴者ニーズに応え、ドラマジャンルの拡充に努めました。更に特別番組では、常盤貴子さんをナレーションに迎えた『京都画報 早春・旧家に伝わる名宝』を東京メトロポリタンテレビジョン(株)、(株)京都放送と3社共同制作し、放送いたしました。

アニメファンから根強い人気を誇る『ANIME+』においては、製作委員会へ出資した作品を含め毎クール約40タイトルのアニメ番組を放送、また子供向け番組として『キッズアニメ∞』枠、読み聞かせ番組『今日のえほん』を放送いたしております。

収入面においては、新型コロナウイルスの影響によるスポンサーの宣伝活動の縮小を受け、タイム収入は減少したものの、巣ごもり需要による通販市況の堅調を受け、スポット収入が増加し、売上高は前年に比べて増加となりました。

費用面においては、人気番組の再放送や再編集版の活用など、新たな試みによる視聴者需要の充足と番組制作継続の両立を図るとともに、番組宣伝や局認知向上施策を効率的に進めコストコントロールに努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は 5,747,236千円（前年同期比 1.0%増加）となりました。営業利益は 1,264,609千円（前年同期比 25.0%増加）、経常利益は 1,334,877千円（前年同期比 31.2%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 911,072千円（前年同期比 31.9%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ214,174千円増加し、21,634,158千円（前連結会計年度末比1.0%増加）となりました。主な要因は、現金及び預金が285,178千円増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ346,479千円減少し、2,273,225千円（前連結会計年度末比13.2%減少）となりました。主な要因は、流動負債のその他に含めて表示している未払金が146,570千円、未払消費税が128,399千円、未払費用が48,450千円減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ560,654千円増加し、19,360,933千円（前連結会計年度末比3.0%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益911,072千円の計上に伴い利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は11,684,498千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、815,664千円（前年同期は950,687千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,334,877千円の計上及び法人税等の支払額458,796千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、191,640千円（前年同期は300,553千円の使用）となりました。これは主に保険積立金の解約による収入158,815千円及び有形固定資産の取得による支出313,386千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、338,846千円と（前年同期は362,618千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額355,922千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年8月期の業績予想につきましては、2020年10月6日付の「2020年8月期 決算短信」で公表しました通期の業績予想から変更ありません。また、第2四半期連結業績予想の修正については、2021年4月5日に公表いたしました「2021年8月期第2四半期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,399,320	11,684,498
受取手形及び売掛金	1,943,310	1,839,823
たな卸資産	359,937	427,745
その他	49,047	33,338
流動資産合計	13,751,615	13,985,406
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,475,116	2,422,505
土地	4,034,756	4,034,756
建設仮勘定	522,720	—
その他(純額)	167,569	767,804
有形固定資産合計	7,200,162	7,225,066
無形固定資産	68,330	90,421
投資その他の資産	399,876	333,264
固定資産合計	7,668,368	7,648,752
資産合計	21,419,983	21,634,158
負債の部		
流動負債		
買掛金	557,801	553,320
短期借入金	500,000	520,000
1年内返済予定の長期借入金	1,900	—
未払法人税等	501,853	482,372
返品調整引当金	52,746	38,084
その他	905,660	577,028
流動負債合計	2,519,961	2,170,804
固定負債		
退職給付に係る負債	80,765	84,125
その他	18,977	18,295
固定負債合計	99,742	102,420
負債合計	2,619,704	2,273,225

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,183,936
資本剰余金	3,517,726	3,517,726
利益剰余金	11,089,605	11,644,600
自己株式	△143	△143
株主資本合計	18,791,125	19,346,120
新株予約権	9,153	14,812
純資産合計	18,800,278	19,360,933
負債純資産合計	21,419,983	21,634,158

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)
売上高	5,690,655	5,747,236
売上原価	2,843,344	2,692,932
売上総利益	2,847,310	3,054,303
販売費及び一般管理費	1,835,250	1,789,694
営業利益	1,012,060	1,264,609
営業外収益		
受取利息	50	57
保険解約返戻金	4,712	69,130
その他	2,993	3,026
営業外収益合計	7,756	72,214
営業外費用		
支払利息	2,028	1,946
その他	23	—
営業外費用合計	2,052	1,946
経常利益	1,017,764	1,334,877
税金等調整前四半期純利益	1,017,764	1,334,877
法人税、住民税及び事業税	343,949	439,959
法人税等調整額	△16,830	△16,154
法人税等合計	327,119	423,804
四半期純利益	690,645	911,072
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	690,645	911,072

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)
四半期純利益	690,645	911,072
四半期包括利益	690,645	911,072
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	690,645	911,072
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,017,764	1,334,877
減価償却費	115,102	228,307
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△21,130	△14,662
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,712	3,360
受取利息及び受取配当金	△50	△57
支払利息	2,028	1,946
売上債権の増減額(△は増加)	435,239	103,486
たな卸資産の増減額(△は増加)	△85,429	△67,807
仕入債務の増減額(△は減少)	△15,653	△4,480
未払金の増減額(△は減少)	△374,364	△121,657
未払費用の増減額(△は減少)	△57,444	△48,450
未払消費税等の増減額(△は減少)	62,140	△128,399
その他	16,026	△10,111
小計	1,095,943	1,276,350
利息及び配当金の受取額	50	57
利息の支払額	△2,028	△1,946
法人税等の支払額	△143,277	△458,796
営業活動によるキャッシュ・フロー	950,687	815,664
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△296,318	△313,386
無形固定資産の取得による支出	△2,263	△30,038
保険積立金の解約による収入	6,340	158,815
その他	△8,311	△7,030
投資活動によるキャッシュ・フロー	△300,553	△191,640
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	20,000
長期借入金の返済による支出	△5,550	△1,900
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,023	△1,023
配当金の支払額	△356,044	△355,922
財務活動によるキャッシュ・フロー	△362,618	△338,846
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	287,515	285,178
現金及び現金同等物の期首残高	10,324,583	11,399,320
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,612,099	11,684,498

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上でのコロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

新型コロナウイルス感染症の拡大については、現在でも尚、継続している状況であります。当社グループでは2021年8月期を通して当該影響が継続し、その後2022年8月期上期にかけて経済状況は徐々に回復していくものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行っております。

しかしながら、今後の経過によっては実績値に基づく結果が、これらの仮定及び見積りとは異なる可能性があります。なお、この仮定については、前連結会計年度から重要な変更はありません。